

(別紙)

2014 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” イベント関連事業内容企画にあたっての主な留意点

平成 25 年 12 月 25 日
公益社団法人 日本獣医師会
動物感謝デー事務局

以下に、応募要領記載事項等に係る留意点を掲載いたします。この内容にご留意いただいた上で、基本的には自由な発想での企画案の作成をお願いいたします。

- 1 事業において実施する市民参加型イベントの名称は「2014 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」とする。ただし、表示等で「World Veterinary Day」を単独で用いる場合は、定冠詞をつけ、「The World Veterinary Day」とする。
- 2 イベントの広報と趣旨の普及・啓発のため、最低限以下の制作物を作成する。数量等は運営手法により必要とされる数とする。
 - ①イベントポスター ②イベントチラシ（①、②は関係者及び周辺自治体配布分を確保）
 - ③イベントプログラム ④獣医師の仕事を一般に普及・啓発するための小冊子
 - ⑤スタッフジャンパー（ビニル素材は不可。袖無しタイプ。）
 - ⑥イベントホームページ ⑦会場内掲出用イベント告知のぼり
- 3 企画にあたり、以下の点を考慮すること。
 - (1) 企画内容は、本会活動指針「人と動物の健康は一つ。そして、それは地球の願い」に沿った企画内容とし、子供・ファミリー向け企画を含む。
 - (2) 雨天時の対応を考慮する。（特にステージ周辺）
 - (3) 来場者による獣医師体験及び各職域分野の獣医師による対談は継続実施する。
 - (4) 展示ブース数は、100 小間（間口 1 間半×奥行一間のブースで換算）程度を確保する。
 - (5) 関連団体の出展の場を確保する。
 - (6) 獣医学系大学の出展の場を確保し、国内の獣医学系大学が一堂に会する場としての価値をPRできるように、演出・広報対策等に配慮する。（教育関連産業における広報対策や中学・高校生向けの特別チラシ配布等）
 - (7) 地方獣医師会の出展の場を確保する。
 - (8) 関連団体、獣医学系大学、地方獣医師会の出展については、展示物の運搬やブース内の施工、水、電力・ガスの供給、食品の保管対策等について主催者側が対応可能な設定とする。
 - (9) 地方の特産品（乳製品含む）の販売・頒布、食品の販売・頒布が可能な設定とする。
 - (10) 一日獣医師体験教室、日本獣医学生協会企画等に用いる来場者向け景品（2,000 個程度）を用意する。
 - (11) 生きた動物と触れ合える企画に際しては、動物愛護・動物福祉の観点から適切な展示方法をとる。
 - (12) 馬を含む動物たちが活動できるスペース（18 メートル四方程度）及び動物ふれあいコーナー（20 メートル×15 メートル）、犬による競技等の実演が可能なアトラクションスペース（30 メートル×10 メートル）を会場に確保する。（動物関連団体の出展等に使用）
 - (13) 報告書の作成様式は、公表しているイベント自体の内容等に加え、施工、スタッフ配置、物品等の状況を含む詳細なものとする。
 - (14) 今後の企画検討段階における新提案に対応可能な開催計画とする。